

平成27年度 港湾振興費の内三河港利用促進戦略検討調査業務委託 実施概要 (愛知県三河港務所 委託事業)

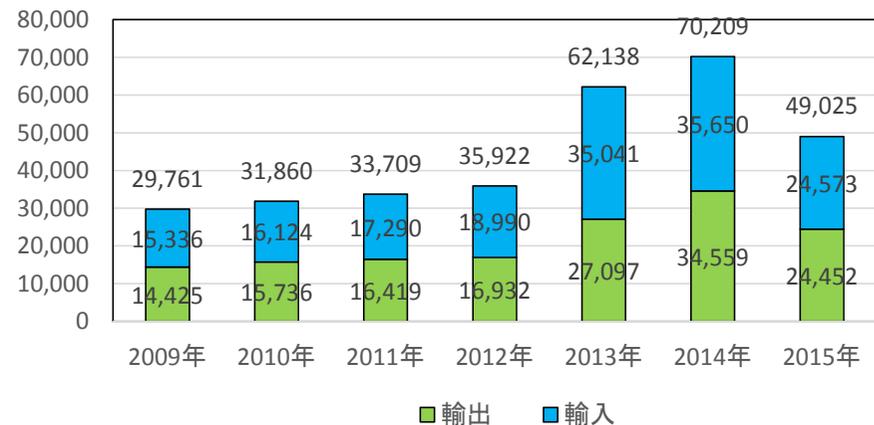
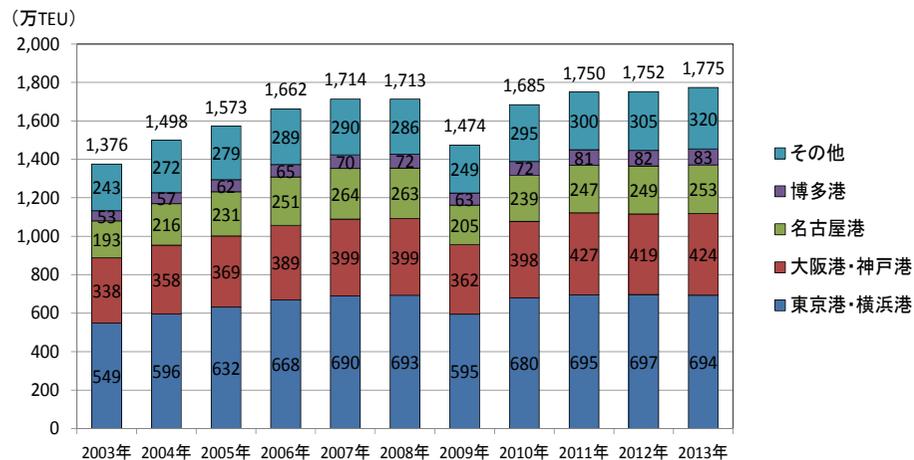
1. 業務の目的

本業務では、三河港および周辺港のコンテナ貨物の取扱状況について、情報を収集整理するとともに、統計資料等を活用して三河港背後地のコンテナ貨物の流動実態を明らかにした。ヒアリング調査により、荷主、荷役事業者、船会社等のユーザー意見を把握し、三河港の利用課題と今後の集荷可能性を検討する。

2. 業務の概要

三河港および周辺港湾のコンテナ等の貨物取扱状況について、愛知県、静岡県、三重県に所在するコンテナ埠頭を有する港湾の動向を整理した。また、三河港背後圏の荷主の荷主等企業へのヒアリング調査によりコンテナ貨物の取扱状況について実態を整理した。加えて、蒲郡地区における新たな貨物の取扱や岸壁等港湾施設の利用促進の可能性について検討した。

3. 業務の結果(一部抜粋)



■輸出入コンテナ貨物の取扱状況(貨物量の推移)

日本全体のコンテナ取扱個数の推移をみると、世界的経済不況の年であった2009年に1,474万TEUまで減少したが、それ以降、2013年は1,775万TEUまで増加している。主要港湾別に取扱個数をみると、東京港、横浜港、大阪港、神戸港、名古屋港、博多港で日本の輸出入コンテナ貨物量全体の8割を占める。

■三河港の外資コンテナ貨物の取扱状況

三河港におけるコンテナ取扱個数(輸出・輸入)は、2013年にロシア航路が新たに就航したことにより大幅に増加(約1.6倍)したが、2015年以降はロシア航路の休止により2016年は大きく減少した。輸出入別にみると、2015年の実績では、輸出・輸入ともにそれぞれ2.4万TEUで、輸出と輸入がほぼ同程度となっている。